カルストアーチの門と２枚の屋根

■コンセプト

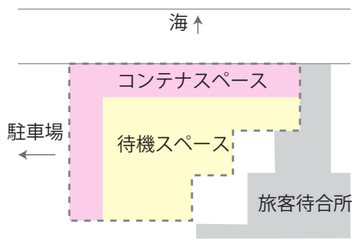
今回設計対象となっている「待機スペースとコンテナスペースを持つ施設」は港に着く船の乗降場から最も近い施設であり、沖縄北部における人の流れや物流の拠点となっている本部漁港にとって、この施設は沖縄北部への「流れ」の出入り口と捉えることができる。

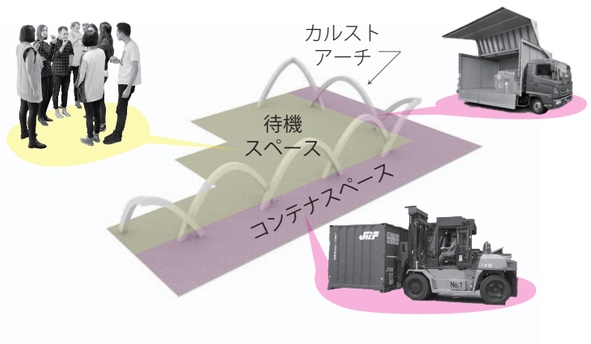
この出入り口に連続したアーチ形の「門」を持つ施設を提案する。
この「門」は様々な思いを持った訪れる人や物資を迎え入れ、旅立つ人が準備をする最後の関となり、船を見送ってくれる存在となる。

「流れ」の出入り口であるこの「門」のモチーフには長い歴史によって形成された本部町を代表する円錐カルスト地形の美しい山並みを用いる。
そうすることで、この施設が本部町を含む沖縄北部のランドマークとなり、この場所に訪れる人にとって印象的な風景としてまたこの場所へ帰って来たくなる施設になることを願う。

■プログラム

1. 敷地外縁部をコンテナスペース、内部を待機スペースとすることでフォークリフトと人の動線を極力交わらせない計画とする。
コンテナスペースと待機スペースの境界に、熱帯カルスト地域の山並みをモチーフとした「カルストアーチ」を配置する。

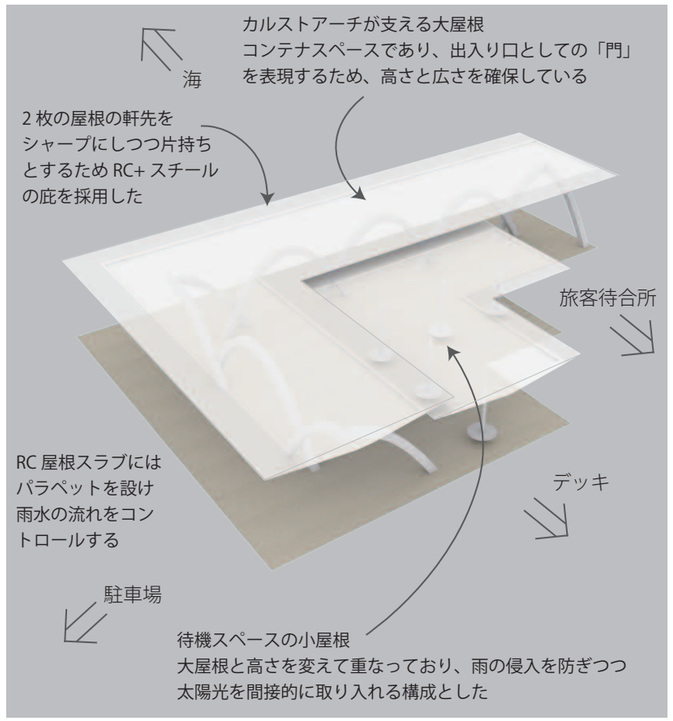




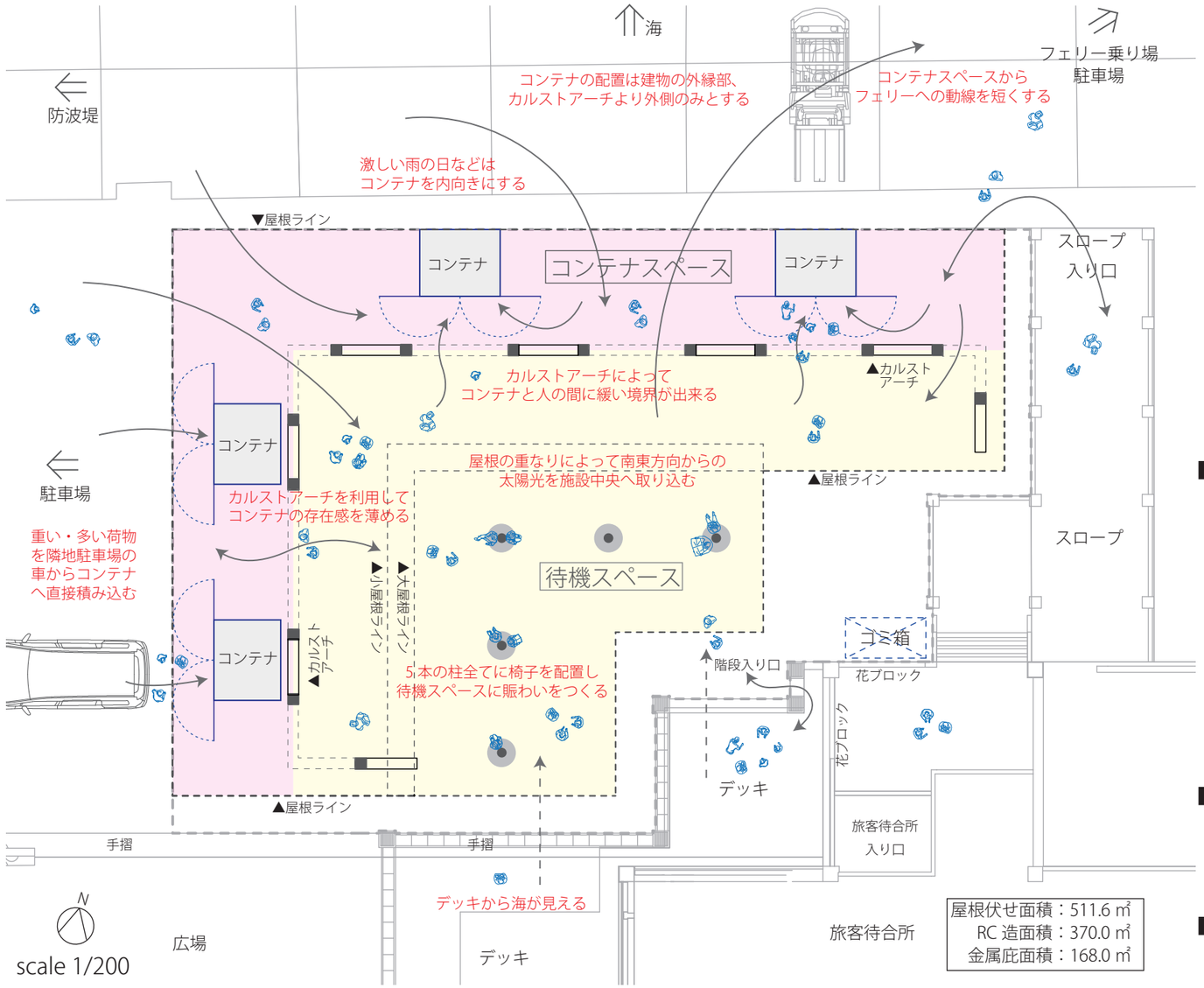
2. 境界を壁ではなく比較的ボリュームの少ないアーチのみで囲うことで見通しを確保しつつコンテナの存在感を和らげることができ、コンテナスペースと待機スペースに程よい距離感を生みだす。

3. このカルストアーチによって、その日の状況に応じてコンテナの置き場や向きを変えることで流動的な現場の状況変化に柔軟に対応することができる。これによりコンテナと人が程よい距離感を保ったまま共存する機能的施設となる。

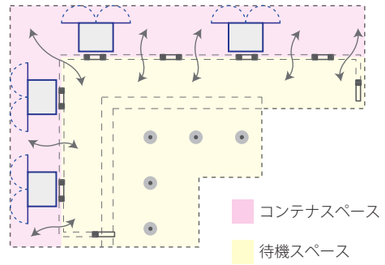
■屋根のかけ方



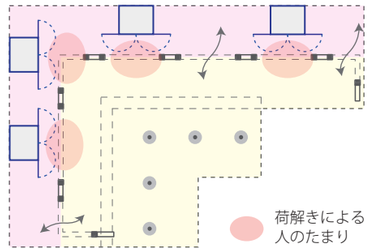
■平面プラン



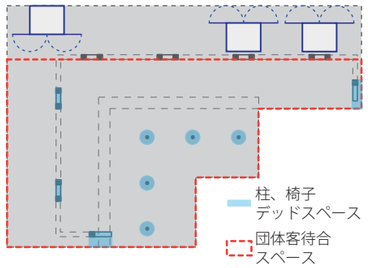
■フレキシブルな平面パターン



1. 通常パターン
アーチの脚部を背にコンテナを配置
待機スペースから見た時にカルストアーチが目隠しとなり、コンテナの存在感を和らげる。外縁部のコンテナ間の隙間が荷解き場や動線となり、視線に抜けができる。隣地駐車場に横付けした車からコンテナへ直接荷物を積み込む。



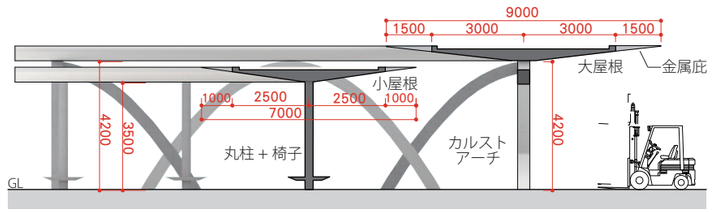
2. 豪雨時 / 真夏日パターン
コンテナを内側にしてアーチ開口部に配置
横降りの雨や強い日差しから荷物を防ぐことができ、コンテナ前のアーチ開口部がそのまま荷解き場として利用される。



3. 団体旅行来客パターン
コンテナを北側に寄せることで団体旅行客のまとまった待機スペースを確保
370 ㎡ (団体客待合スペース)
−12 ㎡ (柱、椅子、デッドスペース)
=358 ㎡ (700 人待機可能)

■ L 字の 2 枚の RC 屋根をそれぞれの柱が支える

構造体は塩害に比較的強い RC 造とし、LCC に配慮する。大屋根はアーチ柱を真ん中に、ヤジロベーのように両方向にスラブを伸ばしたバランスの良い構造としている。待機スペースも同じ構成とし、大屋根とは高さの違う RC の小屋根を丸柱で支えている。軒先はシャープにしつつ距離のあるキャンチを実現するため金属庇とする。



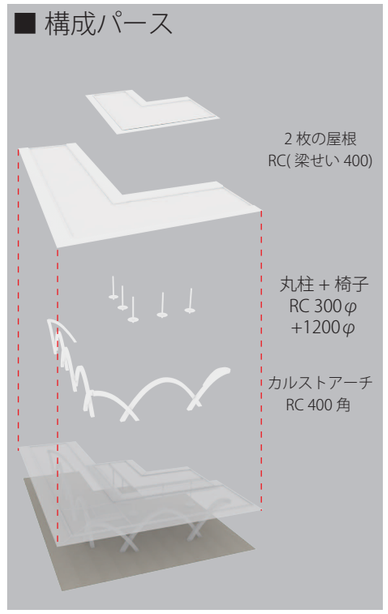
■本部石灰岩を砕石として RC に利用する

「門」のモチーフとしている円錐カルスト地形の山々は古い石灰岩質であり、降雨によって円錐状に岩石がとけ残ったものである。それに合わせて RC 部分の砕石として本部石灰岩を使用することでこの土地の歴史を継承する施設となる。

■海沿いに配慮した仕上げとし、コスト削減に努める

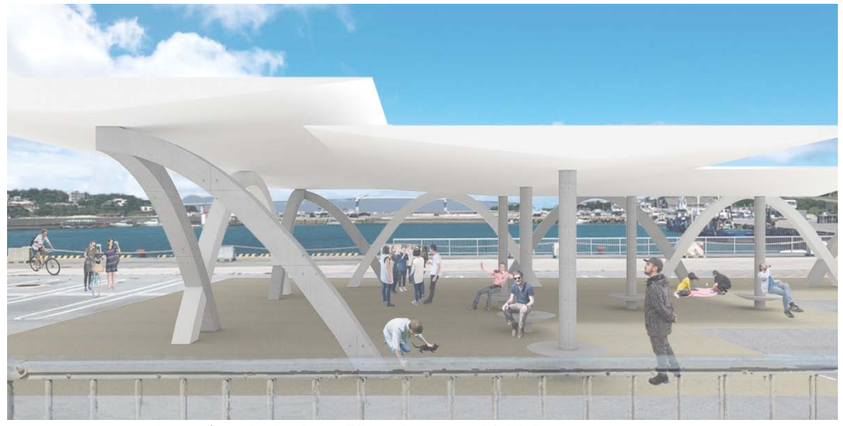
屋根 ： RCスラブ+金属庇+塗装 / 柱・椅子 ： RC打ち放し+クリア塗装
床 ： カラーアスファルト ※鋼材は溶融亜鉛メッキ処理する

■ 構成パース



■シンプルで見通しが良く明るい内部空間

カルストアーチが緩衝帯となりコンテナスペースと待機スペースが分けられながらも緩やかに繋がっている。通常時の利用に必要な椅子は待機スペースの 5 本の柱全てに配置しており、休憩しやすい場所にする。高さの違う同じ構成の屋根の隙間から太陽光を施設中央へ間接的に取り入れる。



■旅客待合所のデッキから施設越しに海が見える

デッキと距離の近い待機スペースの小屋根を支える柱はシンプルな RC 丸柱として旅客待合所への圧迫感を軽減している。また、柱を屋根の真ん中のみに配置することでスッキリとした見通しの良い空間が広がっている。

■伊江島と本部町の境界に建つ「門」

円錐カルスト地形をモチーフとしたアーチを連続させ、施設の北西側をグルっと囲うように配置したことで海のどの方角から見ても門形が確認できる。伊江島からのフェリーの甲板からもこの施設の「門」を確認することができ、ここを訪れるもの、ここを離れるものの目に印象的な風景として長く残り続ける。